第二学年　国語科学習指導案

日時　令和五年十月三十一日（火）
場所　関市立緑ヶ丘中学校（二年三組教室・北舎三階）
学級　二年三組（男子十九名・女子十五名　計三十四名）
授業者　辻　宏紀

一．単元名　「にしえの心を訪ねる」　教材名　「扇の的――『平家物語』から」

二．単元及び教材について

『平家物語』は、平家一門の繁栄から滅亡までを描いている。貴族社会から武家政権へと移行する動乱の時代を舞台に多様な人物の生き様が描かれている。琵琶法師が芸能として語っていた『平曲』として広く一般に広まっていった。文体も耳で聞いて興味を感じる音楽的な効果のある文体であり、読み取った人物の心情を生かした音読教材ともなり得る。生徒も小学生時代に暗唱の経験のある冒頭の『祇園精舎』では、作品の根底に流れる『無常観』を理解することに適している。『扇の的』では、源氏、平家それぞれが合戦の中で命を懸けて戦い、大将の命令には逆らえない『那須与一』の揺れ動く心情や『与一』の見事な腕前に対して舞を舞う平家の老武者に対して、『源義経』の『射倒せ』という非情な命令や『与一』の行為に対する分かれる評価に対して現代人の感覚でどちらに共感するかを考えることも当時の武士の生き様を理解することにつながる。また、『弓流し』での『義経』の行為に対しての是非について自分の考えを明らかにし、仲間との活発な意見交流することも考えられる。さらに、単元終末で『扇の的』、『弓流し』から読み取れる『義経』に対して感じたことを根拠にリーダーのあるべき姿も考えられる教材である。

三．生徒の実態から

一学期の『枕草子』の学習前と学習を終えてのアンケートで次のような結果となった。

「枕草子」学習前	
古文の学習【苦手】	74．2
現代仮名遣い【苦手】	74．2
現代語訳【苦手】	74．2
古文の音読【苦手】	64．6

「枕草子」学習後	
古文の学習【苦手】	64．5
現代仮名遣い【苦手】	51．6
現代語訳【苦手】	74．2
古文の音読【苦手】	38．7

『枕草子』の学習前では、『古文の学習』に苦手（嫌い）」と答える生徒が七割以上いることが分かった。歴史的仮名遣いを直したり、現代と意味合いの違う古語に着目して現代語訳したりすることなどに抵抗感を感じ、学習意欲がわかなかった生徒が非常に多いという実態であった。そこで、『枕草子』では、古文に慣れるために教師の後に続けて読んだり、ペアで交互に読み合ったりするなど音読に力を入れることで『仮名遣い』の直し方に慣れさせた。また、現代語訳をする上で必要となる古語（をかし・あはれ・つとめて・つきづきし）などの意味を古文と現代語訳を常に見比べさせながら訳すこつをつかませた。さらに、昔の人のものの見方、考え方をつかませるために発展学習として『現代版枕草子（清少納言へ手紙を書こう）』という活動を行い、清少納言の感性について共感できる、共感できない点を手紙の中に入れるとともに現代人が感じる夏の風物詩を伝えることで、現代と昔を比べながら自分の考えを明らかにさせた。これらの学習を通して、古文に興味がもてるようになったり、現代仮名遣いに直すことや音読したりすることへの苦手意識が多少改善された。しかし、まだまだ現代語訳することへの苦手意識は根強い。そこで、『平家物語』においても重要な古語の訳し方や登場人物（那須与一・源義経・その場にいる武士）の心情を読み取らせながら、当時の武士のものの見方に気付かせたり、源義経の生き方を通してリーダーについて自分の考えを明らかにさせたりし、単元終末では仲間との交流を通して現代の理想のリーダー像について語り合わせたい。

四．生きてはたらく言語能力」の育成について

中学校学習指導要領解説　我が国の言語文化に関する事項」（中）第二学年より

（３）我が国の言語文化に関する事項

ア　作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと

・　冒頭部分のリズム感や扇の的に向かう「与一」の心情を意識した音読をしている。

イ　現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。

・　平家物語に描かれている源平合戦の背景を理解し、当時の武士の生き様を想像している。

中学校学習指導要領解説　読むこと」（中）第二学年より

（Ｃ）読むこと　精査・解釈に関する事項

イ　目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。

・　場面の展開や表現に着目し、「与一」や「義経」の心情をつかみ、人物像を明らかにしている。

オ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること

・　作品を通して捉えた「義経」の総大将としての生き様を現代の自分の生活と比較して理想のリーダー像を考えている。

本教材では、学習指導要領の第二学年　我が国の言語文化に関する事項」と　読むこと」の指導事項を関連させ、当時の武士のものの見方や考え方にメモ向けるの構想を立てた。

言語活動として　扇の的・弓流し」から義経を中心に本文の言動や行動を表す表現に着目し、人物像を捉えさせる。また、作品に描かれている　義経」の生き様を読み取るためには、本文だけでなく源平合戦のあらましや義経いぶりにも目を向けさせるための資料の必要性も感じる。そして、　扇の的」での　与一」に対する一連の命令から非情さだけでなく、弓流し」での自分の命を顧みずに源氏全体の名誉を考えて落とした弓を命懸けで拾う姿から感じたことなどに着目し、　義経」の総大将としての生き様を考え、交流することが、　読むこと」の指導事項の　目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。」につながると考える。

さらに、　我が国の言語文化に関する事項」の　古典に表れたものの見方や考え方を知ること。」を具体化するための手立てとして現代と比較させる活動を位置付ける。本研究授業の時期は後期の学級組織が動き出し始めた時期で、　平家物語」の学習で一貫して追究してきた源氏の総大将である義経のリーダー像を現代の中学二年生という部活動や学校生活でも必要とされるリーダー性を比較し、自分も後期の新しい係でリーダー性を発揮するためにはどのようにすべきかを考える活動を単元終末に位置付けた。学級の仲間と理想のリーダー像を交流することを通して古典の世界と現代をつなげ、古典の魅力をより身近に感じさせることを意図して単元の指導を仕組んだ。

五．研究とのかかわり　言語部会研究テーマより

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～　言葉への自覚」を高める指導の工夫　～

①指導計画の工夫

本学級の生徒の実態（消極的で人任せにする傾向が強い）から平家物語の背景を丁寧に抑えることで作品に興味をもち、意欲的に学習に取り組めるような時間を位置付けた。その際、夏休みに屋島に訪れ、撮影した写真や現地の人から聞いた話を必要に応じて提示することで　屋島の戦い」（　扇の的』」に興味を持つ生徒が増えることを期待している。また、　扇の的」における与一や義経、戦いの場にいた武士に対して感じたことを交流させるだけでなく、　与一」の心情を読み取り、読み取った心情を意識した音読練習を行わせるために通常の授業時間よりも時間数を確保した。

さらに、単元の授業構成を立てる際、令和五年度国語科授業改善講座（センター研）で学んだことを意識して単元

構想図を作成した。また、今回の関市教育研究会での授業公開は、来年度の岐阜県中学校国語部会美濃地区大会【言語文化部会】の研究主題を具現化するものであり、県国語部会が提案している単元構想図も併せて示している。

②指導援助の工夫

枕草子」(第一段)では、最終的に暗唱させることをねらい、音読練習に力を入れ、生徒も音読への抵抗感も薄れたが、平家物語はリズム感や臨場感を感じられる反面、読みづらい。そこで、場面を指定し、状況に応じて音楽記号を付け、グループ内で音読を交流する場も位置付けることで、古文の音読の上達が内容理解にもつながると考えた。

従前で記したように「枕草子」の学習後、まだ現代語訳に抵抗を感じている生徒が相当数存在するので、「平家物語」においても重要古語を中心に現代語訳にも慣れさせたい。また、ワークシート本教材では、与一や義経の行為に対して賛否両論に分かれる部分が複数ある。そこで、つかんだ人物像を意識しながら、自分はどう思うかという点に対して根拠を明らかにして自分の考えをまとめ、交流することで【思考・判断・表現】の活動としたい。その際、枠だけで特に字数にこだわらないものと原稿用紙タイプで字数にこだわるものに分け、短時間で自分の考えを表現する力の向上を意図し、箇条書きで書く場と文章で書く場を区別し、単調な学習にならないように配慮した。

さらに、本教材では、「与一」だけでなく、「義経」の言動や行動に着目して人物像を捉える活動を要所に位置付けた。その活動の意図として、源平合戦における平家追討軍の総大将である「義経」のリーダーと現代の中学二年生の考える理想のリーダー像を考える活動を終末に位置付け、学級内で交流させたい。この活動を行うことで、岐阜県中学校国語部会、【言語文化部会】の研究主題、『言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成』の「社会生活につなげる能力の育成」の具現につながると考えた。勿論、国語科の授業なので、特別活動の色が強く出ないように配慮をする必要する必要はあるが、国語科は社会生活に直結する教科でもあるので、単なる教材理解で終始しないようにしたい。

次に指導援助の工夫として第一時に「平家物語」のあらましをつかむ際に、「ハンドブック」と併せて全時間の学習で使補助資料を含めたワークシートと自己評価シートを冊子として配布した。時間ごとでなくまとめて配布した意図としては、先の全国学力学習状況調査、生徒質問紙⑯「の『家で自分で計画を立てて勉強をしていますか』という問いに対して本校の結果は「あまりしていない」、「全くしていない」を合わせて【40.2%】であった。家庭学習の実施状況は二年生もほぼ同様の結果である。そこで、一連の学習内容を最初に提示することで、家庭学習(予習・復習)に活用させたいと考えた。

昨今、授業でのICT機器の積極的な活用が強く求められている。本単元においても紙ベースのワークシートを多用し、時代の求めに逆行していると強く感じるが、次の点でのタブレットの活用を考えている。

・「平家物語」のあらましを理解するための動画や画像の視聴
・ワークシートの記述を写真に撮り、提出箱へ送り、共有しての交流
・「与一」が扇の的に向かう心情をつかみ、心情に応じた音楽記号等を付け、学級で音読練習を行い、家庭で自分が工夫した点を意識した音読を録画し、提出

このような多様な活動を行うことで【重点とする指導事項】、「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること』(伝統的な言語文化 イ)を具現し、古文への関心を高めていきたい。

③評価の工夫

夏休みの県中国研の夏季ゼミナール全体会において、評価で大切にしたいキーワードとして「評価を記録に残す」・「評価記録に残す」ことを意識した評価計画を立てることが確認された。そこで、単元指導計画の評価規準を具体的に作成した。評価規準だけでなく、個々の生徒の学習状況や定着状況を確認する意味でも毎時間のワークシートの記述内容を把握し、朱書きをいれることで生徒の主体的な学びに向かう態度を育てるための手立てとする。

六．単元指導計画（ 全七時間）

単元のねらい】

・ 武士の生き方や価値観が読み取れる表現に着目することを通して、登場人物（ 与一・ 義経・ その場の武士たち）の心情に気付き、作品に表れたものの見方や考え方を知り、現代の考え方と比べて自分の考えをもつことができる。

単元の評価規準】

【知・ 技】・ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、作品に表れた当時の武士の価値観や生き方を知っている。 伝統的な言語文化 イ」

【思・ 判・ 表】・ 当時の武士（ 与一・ 義経など）の言動や行動に着目し、共感できたところ・ できなかったところを自分の知識や経験と結びつけて考えている。 読むこと イ」

【主体的な態度】・ 粘り強く登場人物の言動や行動から読み取れる武士の価値観や生き方について考え、自分の生活と比べながらリーダーのあるべき姿について自分の考えを文章にまとめようとしている。

時	ねらい ◎学習課題	評価規準・ 評価方法
1	源平合戦」の歴史的背景や 平家物語」について知る活動を通して、武士の生き様に気付き、作品に関心をもつことができる。 **◎ 源平合戦博士を目指し、作品の知識を高めよう。」**	資料を通して 平家物語」の背景である源平合戦のあらましをつかみ、作品に興味をもっている。（ 授業姿勢の観察）
2	平家物語」の冒頭部分を繰り返し音読する活動を通して、古文のリズムに親しむとともに作品の根底に流れる 無常観」の意味に気付き、作品の内容を理解することができる。 **◎ 冒頭をリズミカルに音読し、根底な流れる思いをつかもう。」**	リズム感を意識した音読を行い、本文から作品の根底に流れる 無常観」の意味を捉えている。 （ 音読の様子・ワークシートの記述）
3	平氏方が扇の的を源氏方に射落とさせようとしているときの 義経」と 与一」の心情を活表現に着目して人物像をつかむことができる。 **◎ 「なぜ、平氏は扇の的を射させようとしたのか。その時の 義経・ 与一」の心情を考えよう。」**	平氏の行為の意図を捉え、それに対する 与一・ 義経」の心情を捉え、当時の武士の価値観や人物像を明らかにしている。 （ ワークシートの記述・交流の様子））
4	与一が平家方の舟に立てかけられた扇を射落とそうとするまでの心情を読み取る活動を通して、死を覚悟して弓を放つ姿から当時の武士の生き方について自分の考えをもつことができる。 **◎ 「工夫した音読をすることで与一の心情を明らかにしよう。」**	言葉に着目して 与一」の心情をつかみ、その心情に応じた音読の仕方を工夫している。 （ ワークシートの記述・音読の様子）
5	与一の見事な腕前に感じ入って舞を舞う平氏の老武者を射倒したことに対する自分の考えをもち、交流する活動を通して、義経や与一に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 **◎ 自分だったら与一の行為をどう思うだろうか。」**	あ、射たり。」情けなし。」と分かれる評価に対し、選んだ立場の根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 （ ワークシートの記述・交流の様子）
6 **本時**	流された弓を命懸けで拾った義経の行為を 肯定・ 否定」の立場で考え、交流する活動を通して、義経の源氏の総大将としての生き様に気付き、義経に対する新たな自分の考えをまとめることができる。 **◎ 落とした弓を命懸けで拾った義経の行為を 肯定・ 否定」の立場から考え、新たな義経像を明らかにしよう。」**	義経の行為を源氏の老臣との対応から 肯定・ 否定」で考え、交流活動を通して作品全体から義経のリーダー像を捉えている。 （ ワークシートの記述・交流の様子）
7	扇の的」の学習を通してつかんだ源氏の総大将としての義経のリーダー像を現代の自分の生活と比較し、自分の考える理想のリーダー像をまとめ、交流することができる。 **◎ 義経のリーダー像が現代に通用するかを考え、理想のリーダー像について考えてみよう。」**	作品全体から捉えた義経の大将としての生き様を現代生活と比べ、自分の理想のリーダー像を明らかにしている。 （ ワークシートの記述・交流の様子）

7. 単元構想図　　単元名【6 いにしえの心を訪ねる】　　教材名【扇の的ー「平家物語」から】（全7時間）

⑤【単元の目標】・武士の生き方や価値観が読み取れる表現に着目することを通して、登場人物（那須与一・源義経・その場の武士たち）の心情に気づき、作品に表れたものの見方や考え方を知り、現代の考え方と比べて自分の考えをもつことができる。

⑥【単元の言語活動】・合戦における武士の生き様や価値観を現代の自分たちの生活と比べ、理想のリーダー像について考えたことをまとめよう。

④【教材の特徴】
合戦の中で登場する人物の言動や行動に着目し、そこから当時の武士の価値観や生き様に触れ、人物像をつかみ、現代の自分たちの生活と比べながら生き方を考える。

③【既習事項】
・歴史的仮名遣いを適切に直している。
・古語に注意して現代語訳を確認している。
・筆者の感性に触れ、手紙形式で現代との感じ方を比較し、感想や筆者の書きぶりを参考にし「現代版枕草子」を書いている。

②【生徒の実態】
・古文の学習の意義が分からず、仮名遣いや現代語訳に直すことに抵抗感をもっている。
・自分の考えに自信をもてず、積極的な挙手発言につながらない姿が多い。

①【重点とする指導事項】
・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。「Cーイ」
・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。「伝統的な言語文化　イ」

⑦【言語活動成立の要件】
・平家物語に描かれている源平合戦の背景を理解し、当時の武士の生き様から心情を想像している。
・武士の生き様や価値観【義経のリーダー像】を示す根拠となる表現を捉え、現代の自分の生活と比較して考えている。

⑧【単元の流れ】

【第1次】2時間〈学習の見通しをもつ。〉	【第2次】3時間	【第3次】2時間
・人物、時、出来事などに着目して作品の背景となる源平合戦のあらましをつかむ。 ・冒頭部分を音読し、語注から作品の根底にある無常観をつかむ。	〈場面の展開から人物の心情を読み取る。〉 ・平家の行為に対する義経の心情を考える。 ・与一の揺れる心情を考える。 ・「あ、射たり。」「情けなし。」を考える。	〈義経の行為や人物像について語り合う。〉 ・義経の行為について自分の考えをもつ。 ・お互いの考えを小集団で語り合う。 ・リーダー像について現代と比較する。

⑨【単位時間の流れ】

【第1次】
①本教材の活動の出口をイメージさせる。また、資料や画像を用いて源平合戦のあらましを理解させる。
②冒頭部分を繰り返し音読させ、リズム感に慣れるとともに作品の「無常観」を理解させる。

【第2次】
③平家の行為の意味を考え、それに対する義経と与一の心情を考える。
④与一の心情の揺れ動きや義経の非情な命令から当時の武士の価値観を考える。
⑤「あ、射たり。」「情けなし。」という言葉からこの場の人物に対する自分の考えをもつ。

【第3次】〈第6時を中心に〉

課題化
・「扇の的」における義経の言動や行動に着目して人物像を焦点化する。

展開（深めの発問）
・「弓流し」で義経が命懸けで自分の弓を拾う行為に対して肯定・否定の立場で考えをまとめる。

評価
・義経の行為の是非を仲間と交流することを通して新たな義経の人物像をまとめている。

構え　人物の生き様に触れ、自分の考えを明らかにする。

⑩ 評価の視点
【知・技】・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、作品に表れた当時の武士の価値観や生き方を知っている。「(3)イ」
【思・判・表】・当時の武士（与一・義経など）の言動や行動に着目し、共感できたところ・できなかったところを自分の知識や経験と結び付けて考えている。「Cーイ」　〈③～⑥〉
【態度】・粘り強く登場人物の言動や行動から読み取れる武士の価値観や生き方について考え、自分の生活と比べながらリーダーのあるべき姿について自分の考えを文章にまとめようとしている。〈⑦〉

八．本時のねらい

流された弓を命懸けで拾った義経の行為を「肯定・否定」の立場で考え、交流する活動を通して、義経の源氏の総大将として生き様に気付き、義経に対する新たな自分の考えをまとめることができる。

九．本時の展開（六／七）

	学習活動	指導・援助
導入 展開	◇「扇の的」の学習でつかんだ義経の人物像を振り返る。 ・冷たく思いやりがない。　・勝つことしか頭にない。 ・プライドが高い。　・自信家で空気が読めない。　・戦闘狂 ☆なぜ、義経は命懸けで弓を拾ったのだろう？ ・弱々しい弓を敵に拾われてバカにされたくなかったから。 ・為朝のような頑強な弓ではなかったから。 ・源氏の恥となり、平家の士気を上げたくなかったから。 ◇全体で「弓流し」を音読し、義経の行為の意図を考える。 ◇本時の課題を確認する。 落とした弓を命懸けで拾った義経の行為をどう思うか？ 「肯定・否定」の立場で自分の考えを明らかにしていこう。 【肯定】 ・義経は源氏全体のことを考えていて、もし命を落としたとしてもそれで味方が反撃し、団結力が高められるから。 ・大将として弱々しい弓を拾われることで今後の戦況に悪影響が出るから。 ・部活で後輩に『この先輩は弱い。』と思われたくないし、周りの人にも認められたいという思いは共感できるから 【否定】 ・この行為は危険すぎる。命を落としたら意味がなく、平家の士気が上がり、結果として源氏の恥になる。 ・義経のプライドがあるかもしれないが、家臣を不安にさせるのは大将としてよくない。 ・今回はたまたま拾えたけど、命の危険がある。もし、平氏に拾われてバカにされても気にせず戦えばいいから。	・「扇の的」での与一への命令や行動から感じる義経像を確認する。 ・「弓流し」の古文を先に音読し、義経の行為を評価するときに老臣とのやり取りの部分に着目するように伝える。 ・義経の「『弱弱たる弓』と叔父の為朝の弓との違いを確認する。 ・義経が自分の弱弱しい弓を平氏に拾われると戦況がどのように変わるかを考えながら、義経の行為の是非について根拠を明確にして考えさせる。 ・自分の考えをまとめる時間を8分とし、自分が選んだ立場をネームプレートで黒板に貼らせる。 ・貼られたネームプレートで小集団を作り、5分間交流させ、その後、全体交流を行う。 【評価規準】 義経の行為を源氏の老臣との対応から「肯定・否定」の立場で自分の考えをまとめ、交流活動を通して新たな義経のリーダー像を捉えている。 ・生徒の学習状況に応じて「弓流し」の図屏風を見せる。 ・「扇の的」の各場面で捉えた義経像と違う新たに気付いた義経像をまとめさせる。 ・次時の学習内容を確認する。
終末	◇なぜ、義経が弓を落とすことになったのだろうか？ ・与一が平氏の老武者を射倒したことに怒って攻めてきた平氏を義経自ら迎え撃とうとしたから。 ◇「弓流し」の場面から読み取れた人物像をまとめる。 過去の戦いから義経は奇襲をかけ、勝つためなら手段を選ばず、卑怯な人だと思った。扇の的では、与一の腕前を認めた平家の老武者を平気で殺させる非情な人物と思ったが、「弓流し」では、源氏の名誉を守ったり、大将自ら戦いに赴いたりする面に気付けた。また、単に安全な場所から非情な命令を出すだけではないこともわかった。	